広 島 県 経 済 の 動 向

令和8年11月19日

商　工　労　働　局

目　　次

１　経済動向の概要 …… １
（１）国内経済の動向
（２）広島県経済の動向

２　県内主要製造業の生産動向 …… ３
（１）鉄鋼
（２）自動車
（３）造船
（４）一般機械
（５）電気機械

３　中小企業の動向 …… ５
（１）概況
（２）景況感・景況感の変化
（３）主な業種の状況

４　企業倒産状況 …… ７
（１）概況
（２）業種別
（３）原因別
（４）今後の見通し

５　最近の雇用失業情勢 …… ８
（１）県内の有効求人・求職の動向
（２）県内の新規求人・求職の動向
（３）県内の人員整理の状況
（４）完全失業率の状況（全国・県内）

（注）「広島県経済の動向」は、国、その他機関等から発表される各種指標を編集、加工し、とりまとめたものです。

1　経済動向の概要

（1）国内経済の動向

ア　概要

<table>
<tr><th rowspan="2">指　　標</th><th colspan="3">令和８年</th></tr>
<tr><th>８月</th><th>９月</th><th>10月</th></tr>
<tr><td>基調判断</td><td colspan="2">景気は、緩やかに回復しているが、
中東情勢や自然災害の影響を注視する必要がある</td><td>景気は、穏やかに
回復しているが、中東情勢の
影響を注視する必要がある</td></tr>
<tr><td>輸　出</td><td colspan="2">持ち直しの動きがみられる</td><td>このところ持ち直しの
動きに足踏みがみられる</td></tr>
<tr><td>生　産</td><td>横ばいとなっている</td><td colspan="2">総じてみれば持ち直しの動きがみられる</td></tr>
<tr><td>設備投資</td><td colspan="3">持ち直している</td></tr>
<tr><td>雇用情勢</td><td colspan="3">改善の動きがみられる</td></tr>
<tr><td>個人消費</td><td colspan="3">持ち直しの動きがみられる</td></tr>
<tr><td>住宅建設</td><td colspan="3">総じて横ばいとなっている</td></tr>
<tr><td>消費者
物価</td><td colspan="2">緩やかに上昇している</td><td>このところ上昇している</td></tr>
<tr><td>企業収益</td><td colspan="3">改善しているが、中東情勢の影響を注視する必要がある</td></tr>
</table>

イ　先行き

雇用・所得環境の改善や各種政策の効果が緩やかな回復を支えることが期待されるものの、中東情勢の影響を注視する必要がある。また、金融資本市場の変動の影響などに注意する必要がある。

【内閣府「月例経済報告」（令和８年10月27日公表）】

（２）広島県経済の動向

ア　概要

指　　標	令和８年		
	８月	９月	10月
基調判断	緩やかな回復基調にある		
輸　出	緩やかに回復している		
生　産	緩やかに回復している		
設備投資	増加している		
雇用・所得	緩やかに改善している		
個人消費	緩やかな回復基調にある		
住宅投資	下げ止まっている		
消費者物価（除く生鮮食品、広島市）	１％台半ばのプラスとなっている	１％台後半のプラスとなっている	２％のプラスとなっている

イ　県内の経済の先行き

原油価格やＡＩ関連需要の動向などが、企業の賃金・価格設定行動、個人消費の動向などに及ぼす影響について注視していく必要がある。

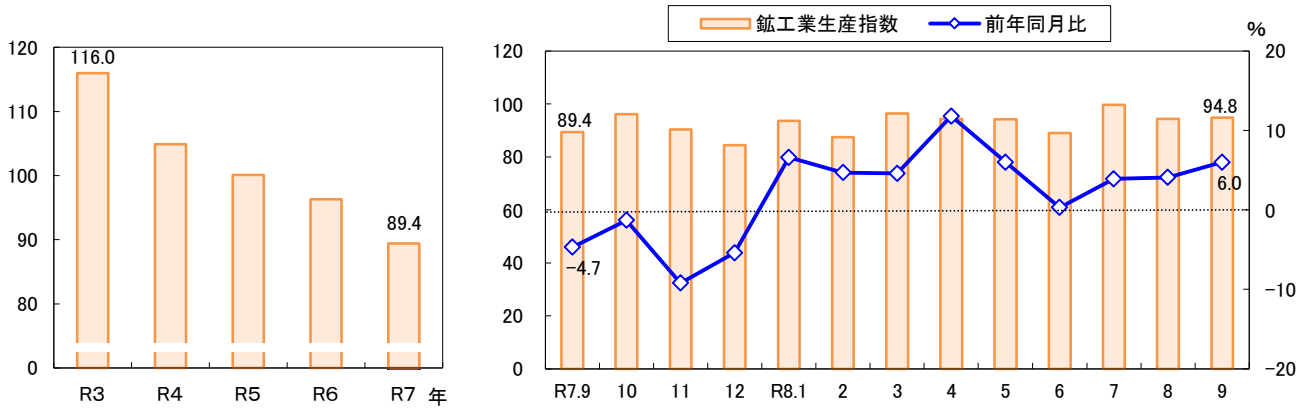
【日本銀行広島支店「広島県の金融経済月報」（令和８年11月６日公表）】

2　県内主要製造業の生産動向

（１）鉄鋼（令和８年９月）

９月の鉱工業生産指数（鉄鋼業、原指数、速報値、令和２年＝100）は94.8で、前年同月比で6.0%増加となっている。

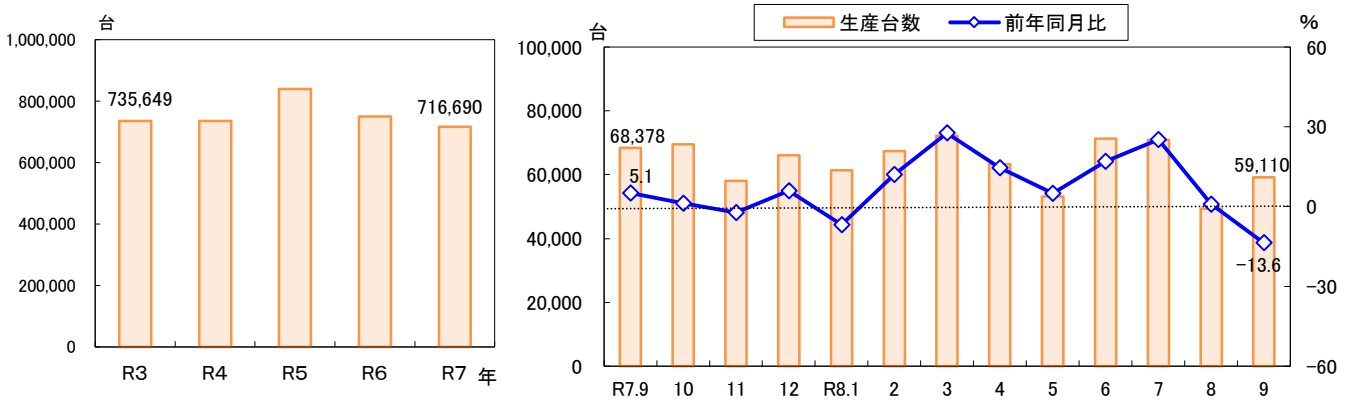
鉱工業生産指数(鉄鋼業)(年別、月別・前年同月比)　【県統計課】



（２）自動車（令和８年９月）

９月の国内生産台数は59,110台で、前年同月比で13.6%減少となっている。

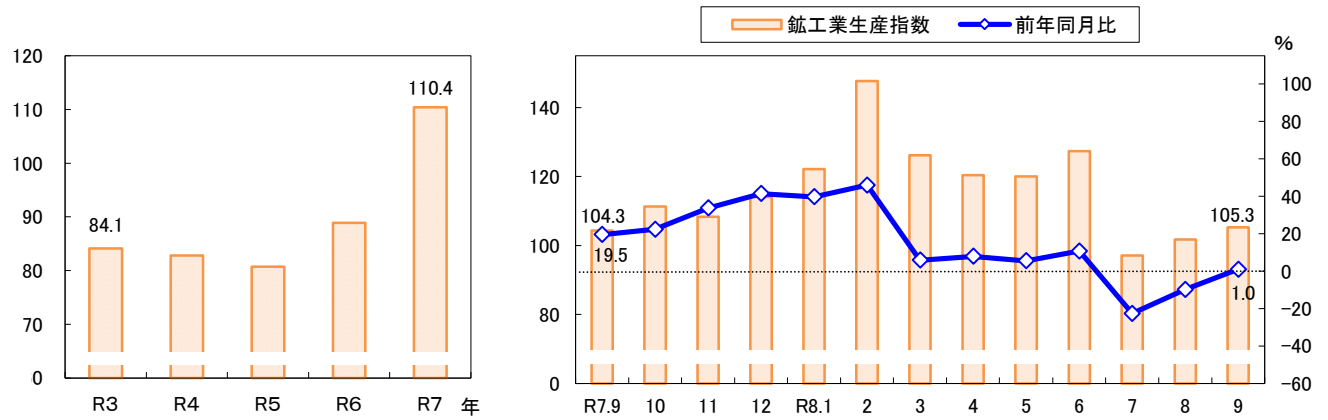
自動車生産台数(年別、月別・前年同月比)　【マツダ（株）】



（３）造船（令和８年９月）

９月の鉱工業生産指数（造船部門、原指数、速報値、令和２年＝100）は105.3で、前年同月比で1.0%増加となっている。

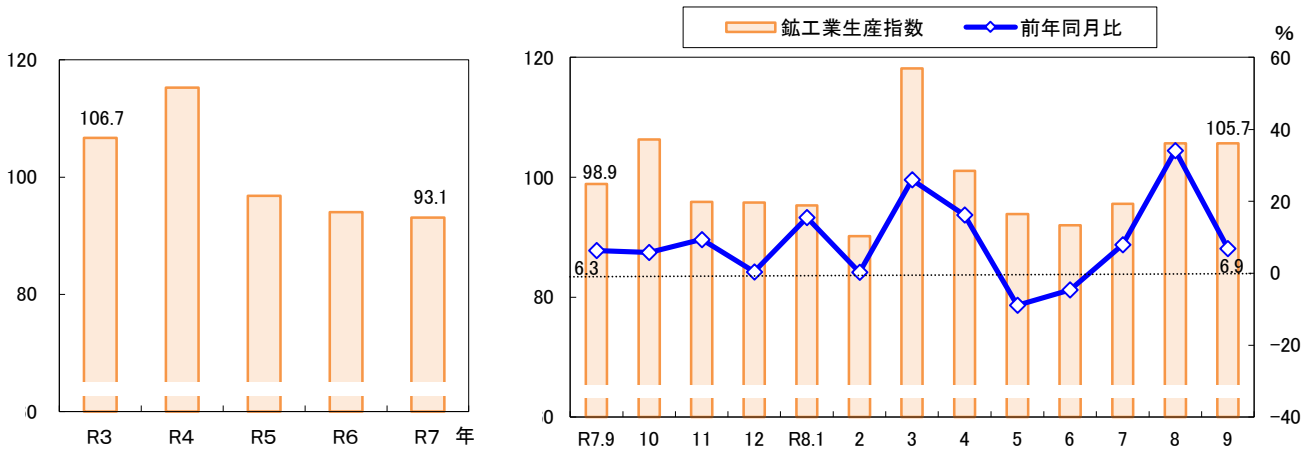
鉱工業生産指数(造船部門)(年別、月別・前年同月比)　【県統計課】



（４）一般機械（令和８年９月）

９月の鉱工業生産指数（一般機械工業（総合）、原指数、速報値、令和２年＝100）は105.7で、前年同月比で6.9%増加となっている。

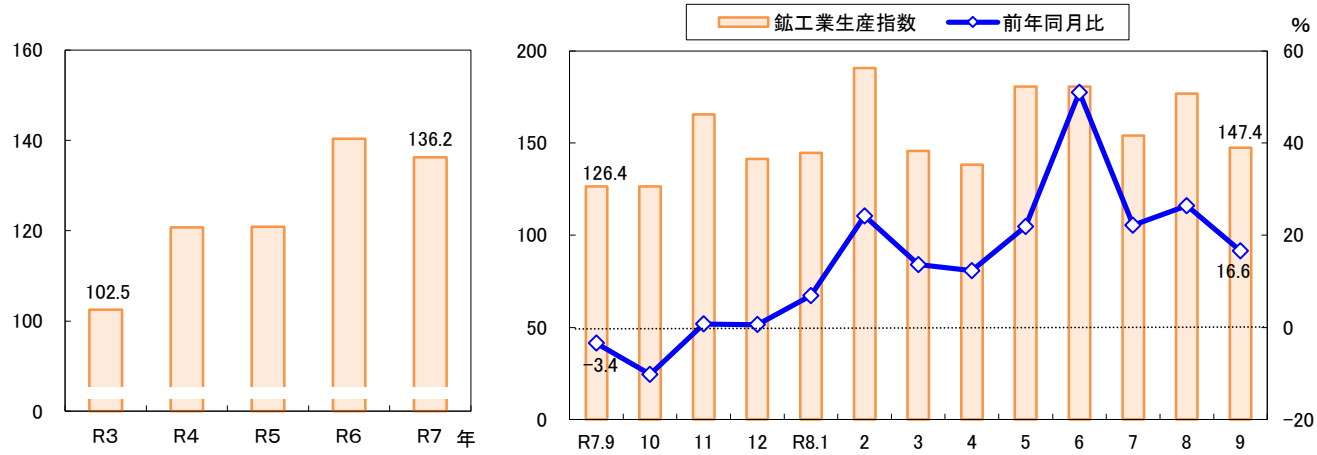
鉱工業生産指数(一般機械工業(総合))(年別、月別・前年同月比)　【県統計課】



（５）電気機械（令和８年９月）

９月の鉱工業生産指数（電気機械工業（総合）、原指数、速報値、令和２年＝100）は147.4で、前年同月比で16.6%増加となっている。

鉱工業生産指数(電気機械工業(総合))(年別、月別・前年同月比)　【県統計課】



３　中小企業の動向（令和８年９月）

【広島県中小企業団体中央会（令和８年10月16日時点）】

（１）概況

県内の多くの中小企業においては、原材料費や資材価格、人件費等の上昇が続く中、価格転嫁が思うように進まないケースが見られるほか、慢性的な人手不足の影響により、厳しい経営状況が窺える。先行きについても、コスト高や人手不足の長期化に加え、為替や金利動向への懸念もあり、受注や需要の先行きに慎重な見方が多く、回復の見通しは依然として不透明な状況にある。

自動車関連業種では、９月の国内自動車販売台数は前年同月比＋1.3％と６か月連続増加しており、マツダ車は前年同月比+12.0％と４か月連続の増加となった。

また、木材業界では、９月の全国新設住宅着工戸数は61,826戸で前年同月比－2.7％となり、県内では1,130戸で、前年同月比＋8.7％となった。

※マツダ車に関する記載はマツダ（株）発表の「2026年9月および4～9月の生産･販売状況について」に基づく

※木材業界に関する記載は､国土交通省が公表する｢建築着工統計調査報告｣及び広島県がホームページに掲載する「新設住宅着工戸数」の９月分のデータに基づく

（２）景況感・景況感の変化

８月と比較して景況感の区分が変化した業種はなく、各景況区分の業種数に増減は見られなかった。

業種	８月の景況感	９月の景況感
食料品	やや悪い	やや悪い
繊維・衣服	普通	普通
木材	やや悪い	やや悪い
家具	やや悪い	やや悪い
印刷	やや悪い	やや悪い
化学	やや悪い	やや悪い
プラスチック製品	普通	普通
土石製品	悪い	悪い
鉄鋼（鋳物）	やや悪い	やや悪い
金属製品	やや悪い	やや悪い

業種	８月の景況感	９月の景況感
一般機械器具	普通	普通
電気機械器具	やや好況	やや好況
自動車部品	やや好況	やや好況
造船	やや好況	やや好況
建設	普通	普通
トラック輸送	やや悪い	やや悪い
卸売	やや悪い	やや悪い
小売	やや悪い	やや悪い
情報サービス	普通	普通

（単位：業種）

景況感	８月	９月	増減数
好況	0	0	0
やや好況	3	3	0
普通	5	5	0
やや悪い	10	10	0
悪い	1	1	0

（３）主な業種の状況

業種	８月の景況感	９月の景況感	状　　況
電気機械器具	やや好況	やや好況	・ＡＩ関連市場が好調であることから、半導体のパッケージ基板を製造する装置の需要が高まっている。 ・半導体関連は、比較的好調である。 ・一部の半導体製造装置やデータセンターの需要増加の影響で、装置や機械まわりの部材が入手しにくくなっているものが増えており、価格も上がっている。 【広島県東部機械金属工業協同組合】
卸売	やや悪い	やや悪い	・９月の卸売業の状況は、売上高が前年同月比、前月比ともにほぼ横ばいとなった。販売単価は上昇しているが販売数量は横ばいで、大型連休もあって稼働日が減少したことから、増収とはならなかった。引き続き、原材料費、燃料費、物流費の上昇が収益改善の足かせとなっている。１０月以降も食料品を中心に値上げが予定されているが、組合員各社の価格転嫁への対応には温度差があることもあり、収益に結び付くまでには時間を要する見込みである ・今後、廃業を検討している組合員が一部出始めている。理由は、後継者が見つからないこと（事業承継難）のほか、最近の金利上昇がさらなる収支の悪化を招き、過大な借入金を抱える組合員ほど影響が大きいことである。また、労働力不足は組合員全体に共通する課題となっている。組合としても、地域の高等学校等と連携し、授業等の一環として、各組合員の事業紹介や体験学習の場の提供を行うなど、新卒者も含めた労働力確保のための施策を講じることとしている。 【協同組合広島総合卸センター】

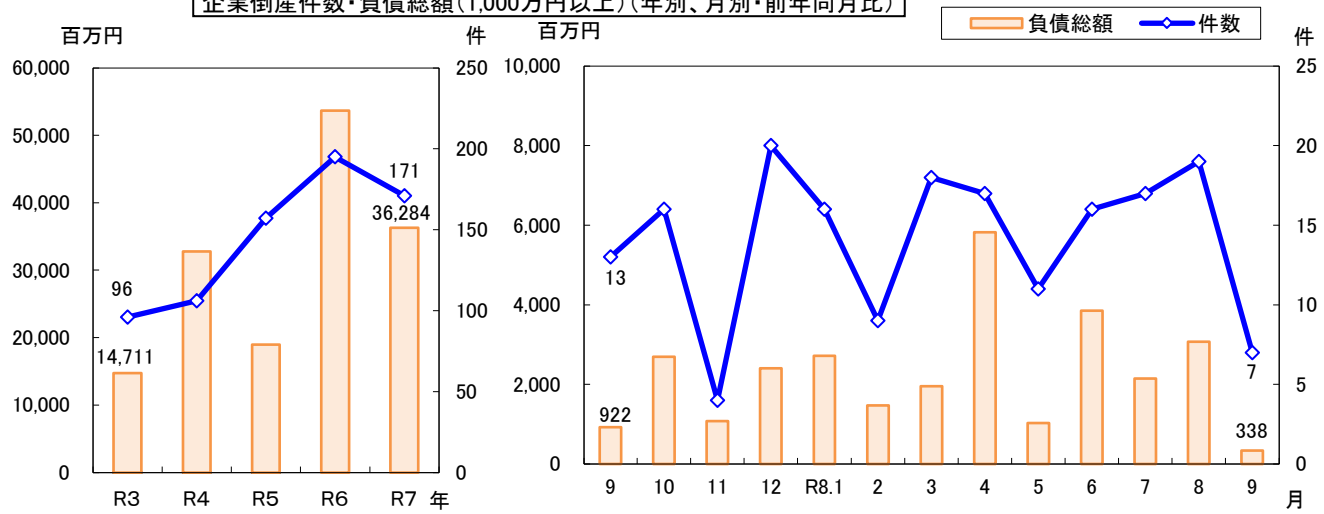
4　企業倒産状況（令和８年９月）

（１）概況

負債総額1,000万円以上の倒産は、件数が７件、総額３億3,800万円であった。
前月比では、件数が12件減、負債総額は27億3,600万円減少した。
前年同月比では、件数は６件減、負債総額が５億8,400万円減少した。
大型倒産（負債総額10億円以上）は０件であった。

区　　分	令和８年７月	令和８年８月	令和８年９月
件　　数 （前年同月比）	17件 （5.6%減）	19件 （5.6%増）	7件 （46.2%減）
負債総額 （前年同月比）	2,144百万円 （80.4%減）	3,074百万円 （42.7%減）	338百万円 （63.3%減）

企業倒産件数・負債総額（1,000万円以上）（年別、月別・前年同月比）



（２）業種別

件数は、建設業が３件、卸・小売業３件、サービス業１件となった。
負債総額は、サービス業、卸・小売業、建設業の順となった。

（３）原因別

原因別では、販売不振が６件、その他（継続的な赤字からの前代表者の急逝）１件であった。

（４）今後の見通し

令和８年９月度の倒産件数は７件、負債総額３億3,800万円で、件数は前年同月比では２ヶ月ぶりの減少、前月比は４ヶ月ぶりの減少、負債総額は前年同月比は５ヶ月連続の減少、前月比は２ヶ月ぶりの減少となった。

業歴別倒産状況では30年以上が３件、20年以上が０件、10年以上が２件となり、業歴10年以上の倒産が全体の71.4%となり、前月８月度では業歴10年以上の倒産が全体の89.5%となり、業歴の長い企業の倒産が続いている。

原因別にみると販売不振が６件で最多となり、既往のシワ寄せは０件、売掛金等回収難は０件で、これらを合計した不況型倒産は６件で全体の85.7%を占めた。

そのような中、新型コロナウイルスを要因とした倒産は９月は発生なく、これまでの累計は341件（負債総額1,000万円未満、弁護士一任・準備中を除く）となった。近時、増加傾向である代表者の急逝、体調不良を要因とした倒産については２件発生した。

令和８年に入り全国各地で自然災害が発生、７月の「令和８年熊本地震」、８月の「令和８年８月千葉豪雨」のほか、北陸の大雨被害など、全国各地で甚大な被害をもたらしている。各地の経済情勢の悪化が地場企業に止まらず全国へ影響を及ぼす可能性は極めて高い。また、９月３日、厚労省は令和８年度の地域別最低賃金の改定額の取りまとめを公表し、最低賃金引き上げの影響も出ている。米国とイスラエルによるイラン攻撃で、原油価格の上昇や石油精製製品の目詰まりなど、供給面に支障が生じたが、現在は供給面の問題は解消しつつある。ただ、「供給面は解消されても、今後は物価への影響が懸念される」（金融機関）などの声は根強く、別の金融機関では、「物価高は小規模企業ほど資金繰りへの影響が大きい」と取引先の動向を懸念する状況にある。

過剰債務の解消が遅れ、金利上昇で支払利息が負担になる企業が増えてくる。借入金の返済が難しく、リスケ（返済猶予）を繰り返す企業は少なくない。この局面では、金融機関は貸出の採算をしっかり見極めつつ、水面下ではメリハリを持った貸出姿勢に転換する。

物価高、人件費上昇、金利上昇などで業績改善が進まず、リスケ依存で苦境を凌ぐ企業は事業継続の分岐点を迎えつつある。今後、秋口以降、資金需要が活発になる時期となるが、金融機関は次第に選別融資を強める可能性もあり、企業倒産は緩やかな増勢が見込まれる。

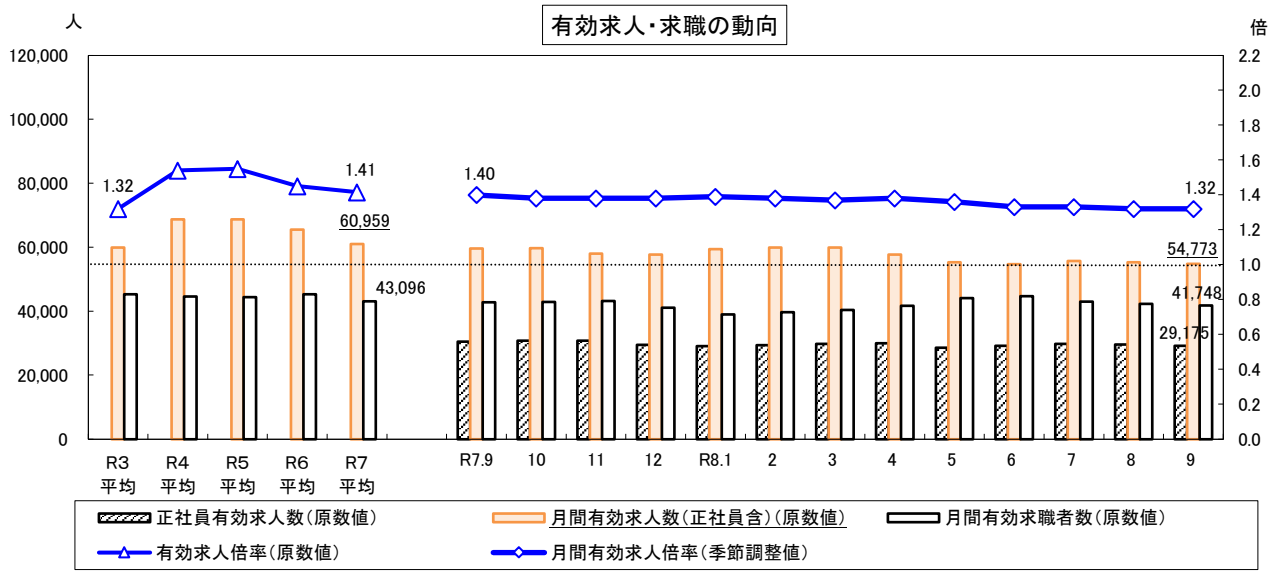
【（株）東京商工リサーチ（令和８年10月５日時点）】

５　最近の雇用失業情勢（令和８年９月）

（１）県内の有効求人・求職の動向

区　　分	令和８年７月	令和８年８月	令和８年９月
有効求人倍率〈季節調整値〉 （前月比）	1.33倍 （±0.00ポイント）	1.32倍 （▲0.01ポイント）	1.32倍 （±0.00ポイント）
正社員有効求人倍率 （前年同月比）	1.20倍 （▲0.02ポイント）	1.21倍 （▲0.02ポイント）	1.20倍 （▲0.03ポイント）

【広島労働局】

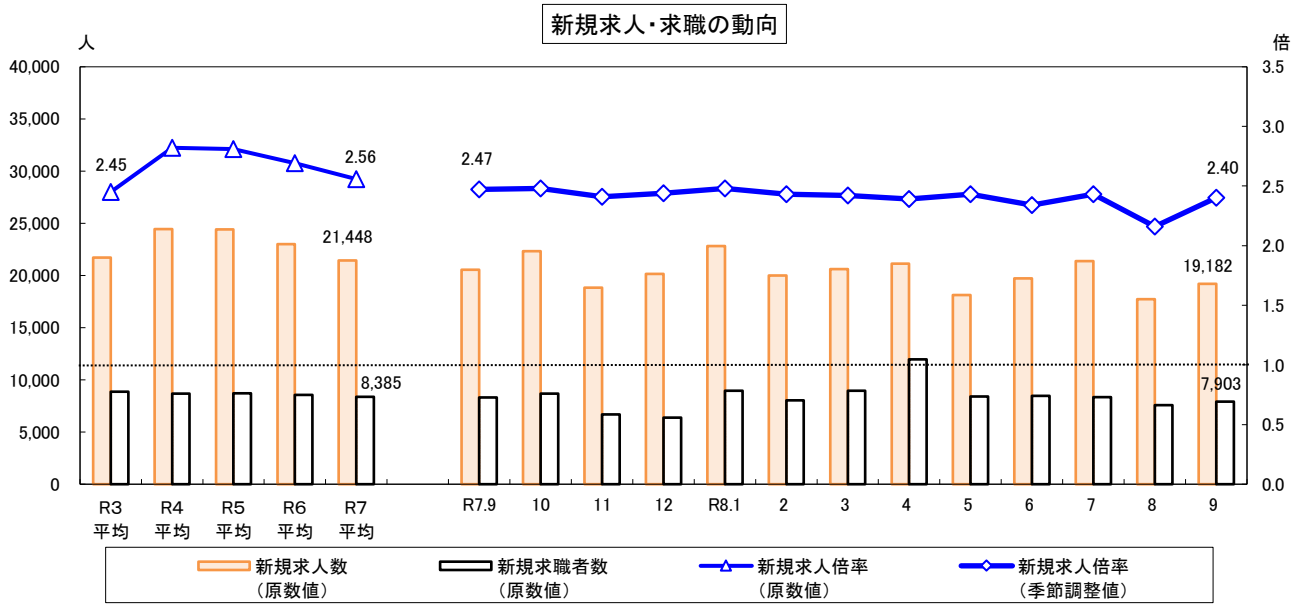


（注1）正社員有効求人倍率は、正社員の有効求人数をパートタイムを除く常用有効求職者数（派遣労働者や契約社員を希望する者も含む）で除して算出しているため、厳密な意味での正社員有効求人倍率より低い値となる。
（注2）正社員有効求人倍率は、季節調整されていない。
（注3）季節調整値は毎年１月分公表時に過去に遡って改訂される。

（２）県内の新規求人・求職の動向

区　　分	令和８年７月	令和８年８月	令和８年９月
新規求人倍率〈季節調整値〉 （前月比）	2.43倍 （＋0.09ポイント）	2.16倍 （▲0.27ポイント）	2.40倍 （＋0.24ポイント）

【広島労働局】

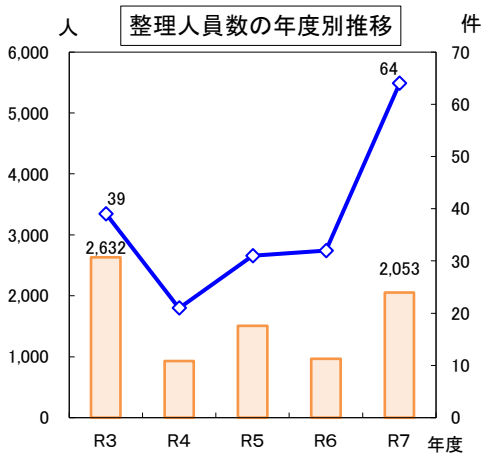


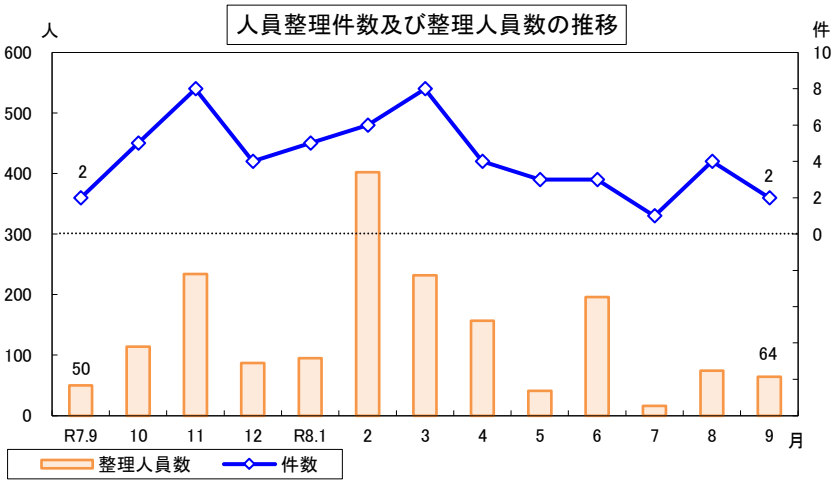
（注）季節調整値は毎年１月分公表時に過去に遡って改訂される。

（３）県内の人員整理の状況（整理人員10人以上）

区　　分	令和８年７月	令和８年８月	令和８年９月
件数 （前年同月比）	1件 （▲4件）	4件 （±0件）	2件 （±0件）
整理人員 （前年同月比）	16人 （▲77人）	74人 （±0人）	64人 （＋14人）

【広島労働局】



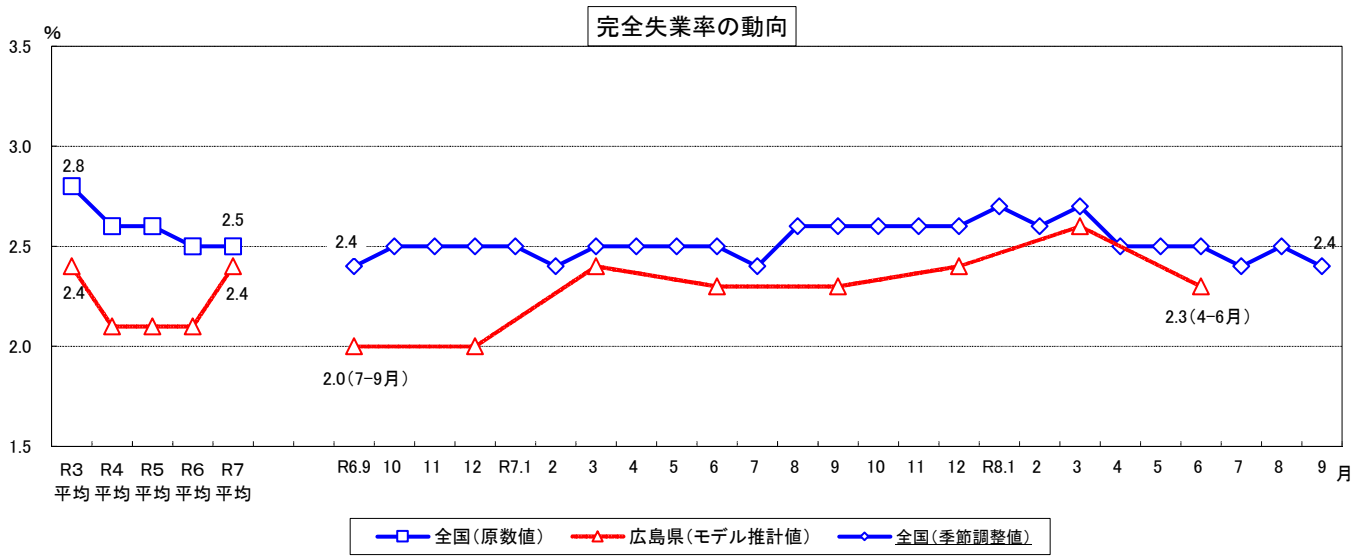


（４）完全失業率の状況（全国・県内）

区　　分	令和８年７月	令和８年８月	令和８年９月
全国完全失業者数〈原数値〉 （前年同月比）	169万人 （±0万人）	180万人 （▲2万人）	169万人 （▲15万人）
全国完全失業率〈季節調整値〉 （前月比）	2.4% （▲0.1ポイント）	2.5% （＋0.1ポイント）	2.4% （▲0.1ポイント）

区　　分	令和７年	令和８年	
	10～12月平均	１～３月平均	４～６月平均
広島県完全失業率 〈モデル推計値〉 （前年同期比）	2.4% （＋0.4ポイント）	2.6% （＋0.2ポイント）	2.3% （±0.0ポイント）

【総務省統計局】



※　全国完全失業率の季節調整値は毎年１月分公表時に過去に遡って改訂される。

※　広島県（モデル推計値）は、毎年１～３月期平均公表時に、新たな結果を追加して再計算を行い、前年までの四半期平均及び年平均結果を過去に遡って一部改定している。